平成 26 年度大阪都市再生部会

大阪の都市格向上研究会 調査研究報告書

市民が誇る「大阪」を目指して

平成２７年３月

一般財団法人大阪科学技術センター

地域開発委員会

大阪都市再生部会　大阪の都市格向上研究会

目　　次

はじめに

１．本調査研究の背景と目的 ･･ 1

２．都市格とは ･･･ 3

３．都市ランキングからみた大阪の「文化的要素」と「共生的要素」 ･････････････････････ 9
（１）都市総合力ランキングにおける大阪のポジション ･････････････････････････････････ 9
（２）４つの構成要素からみた大阪の特徴 ･･･ 11

４．「大阪らしさ」とは ･･･ 15
（１）大阪らしさを表す 10 のテーマ ･･･ 15
（２）大阪が有していた３つの魅力と「人のつながり」 ･････････････････････････････････ 16

５．大阪の都市格を高めるために ･･･ 18
（１）都市格向上のための視点 ･･･ 18
（２）強化に向けた基本方向 ･･･ 19
（３）市民が誇る「大阪」をめざして ･･･ 27

はじめに

近年の社会経済環境の急激な変化やインターネットを始めとする情報技術の急速な発展と普及により、世界との距離が一気に縮まりを見せた。その結果、都市のレベルでは「選ばれる都市」になるために国際規模での都市間競争が激化している。国内においても、人口減少の影響も重なり、東京と地方都市、あるいは地方都市同士が熾烈な競争を強いられており、近畿においては大阪の都市力の創造・強化への取組みが強く望まれている。

(一財)大阪科学技術センターの大阪都市再生部会は、このような時代認識のもと、平成 25 年度より「大阪の都市格向上研究会」を設置し、民間企業の委員を中心に検討を進めてきた。

研究会では、平成 25 年度は「世界の都市総合力ランキング 2012」の指標に基づいた考察を深め、都市格の構成要素を整理し、平成 26 年度は、ランキングで大阪の弱みとなっていた「文化的要素」と「共生的要素」の視点から検討を進めるにあたって、「大阪らしさ」に着目し、そこから導き出される魅力を基に、大阪の「都市格」を高めるための方向性を明らかにし、中間報告をまとめるに至った。

本報告書を取りまとめるにあたり、吉川部会長をはじめとする委員各位・アドバイザー、講演を通じて多くの知識や示唆に富んだ貴重なご意見をいただいた講師の先生方に対して深甚なる敬意を表する次第である。

地に足の着いたローカル性に着目した今回の提案は、従来のものとはやや異なる視点であろう。次世代の大阪、関西の都市戦略の新たなコンセンサス形成に向けて、本報告書をご活用いただきたいと考えている。

平成 27 年 3 月

大阪都市再生部会　大阪の都市格向上研究会

座長　　森澤五郎

■研究会の開催

大阪の都市格向上研究会では、各回、外部から講師を招いたほか、大阪の都市格向上に向けた意見交換を行い、計８回の研究会を実施し、報告書を取りまとめた。

平成２５年度　第１回　大阪の都市格向上研究会

○日　時：平成２５年５月２７日（火）１５：００～１７：３０

○場　所：大阪科学技術センター　７階　７０２号室

○内　容：①話題提供「大阪のポテンシャル　世界の都市総合力ランキングからみる Global Power City Index 2013」

明治大学専門職大学院長／一般財団法人森記念財団都市戦略研究所理事　市川　宏雄 氏

②会議「今年度の進め方について」

平成２５年度　第２回　大阪の都市格向上研究会

○日　時：平成２５年９月１７日（火）１７：００～１９：００

○場　所：大阪科学技術センター　７階　７０２号室

○内　容：①話題提供「海外からの旅行客から見た大阪の魅力」

株式会社観光経済新聞社関西支社長代行　神保 元英 氏

②会議「調査状況の経過報告、今後の進め方について」

平成２５年度　第３回　大阪の都市格向上研究会

○日　時：平成２５年１２月１７日（火）１５：００～１７：３０

○場　所：大阪科学技術センター　７階　７０２号室

○内　容：①話題提供「都市の格を高める処方箋」

明治学院大学経済学部教授　服部　圭郎 氏

②会議「研究会の取りまとめについて」

平成２５年度　第４回　大阪の都市格向上研究会

○日　時：平成２６年１月１６日（金）１６：００～１８：３０

○場　所：大阪科学技術センター　７階　７０２号室

○内　容：①話題提供「大阪の観光戦略について」

大阪観光局長 加納　國雄　氏

②会議「研究会の取りまとめについて」

第６６回大阪都市再生部会フォーラム

○日　時：平成２６年２月１８日（火）１４：３０～１５：５０

○場　所：大阪科学技術センター　７階　７００号室

○内　容：「世界から大阪はどのように見られているか」

株式会社 JTB 西日本国際旅行営業部東アジア営業統括課長　鳴尾 仁秀 氏

平成２６年度　第１回　大阪の都市格向上研究会

○日　時：平成２６年７月７日（月）１５：００～１７：３０

○場　所：大阪科学技術センター　４階　４０５号室

○内　容：①話題提供「都市格向上に向けた都市の文化戦略について～2020 年東京オリンピックと欧州文化首都～」

三菱UFJリサーチ&コンサルティング㈱芸術・文化政策センター兼経済・社会政策部センター長　太下 義之 氏

②会議「今年度の進め方について」

平成２６年度　第２回　大阪の都市格向上研究会

○日　時：平成２６年８月２８日（木）１６：３０～１８：３０

○場　所：大阪科学技術センター　７階　７０１号室

○内　容：①話題提供「都市格向上におけるソーシャルインパクトの活用」

慶応義塾大学総合政策学部 准教授　玉村 雅敏 氏

②会議「アウトプットイメージについて」

平成２６年度　第３回　大阪の都市格向上研究会

○日　時：平成２６年１２月８日（月）１６：００～１８：３０

○場　所：應典院　研修室Ｂ

○内　容：①話題提供「地域資源の活用による共生・地域文化の共創」

浄土宗大蓮寺・應典院 住職／パドマ幼稚園 園長　秋田 光彦 氏

②会議「研究会の取りまとめについて」

平成２６年度　第４回　大阪の都市格向上研究会

○日　時：平成２７年２月２日（月）１５：００～１８：００

○場　所：大阪科学技術センター　４階　４０３号室

○内　容：①話題提供「まちなか観光と大阪の都市格向上」

一般社団法人大阪あそ歩 代表理事　茶谷 幸治 氏

②会議「研究会の取りまとめについて」

第６８回　大阪都市再生部会フォーラム

○日　時：平成２７年２月１７日（火）１４：３０～１５：５０

○場　所：大阪科学技術センター　７階　７０２号室

○内　容：「2020 年東京五輪―文化プログラムの全国展開による地域の活力創出を」

㈱ニッセイ基礎研究所研究理事／東京芸術文化評議員会評議員・文化プログラム検討部会長　吉本 光宏 氏

１．本調査研究の背景と目的

（背景）

近年では、社会経済環境の急激な変化により、人の交流やモノの流通におけるグローバル化が著しく進展するとともに、インターネットの発達により、世界中いつでもどこでもつながることが可能となり、ボーダレスの様相を呈している。そのような状況の下、都市のレベルでは、「選ばれる都市」になるために国際的規模での都市間競争が激化している。

本研究会の平成 25 年度第 3 回講演（明治学院大学・服部教授）においても次のようなことが指摘された。

・ヨーロッパでは、EC（現 EU）が設立されてからボーダレスな環境が加速し、国を越えて都市間の競争が激化していること
・世界的に、「都市のランキング」が頻繁に発表される傾向にあること
・競争に負けないため、「都市の格」を強く意識した都市政策が各都市で展開されるようになっていること
・「都市の格」とは、都市マーケティングにおいても極めて重要なものであると認識されてきていること

「大阪」の現状を見ると、本社機能の流出や工場の閉鎖等による経済の地盤沈下が叫ばれて久しく、我が国では東京を中心とする首都圏の一極集中が続いていると言われている。

また、大阪の都心部では、都心回帰により人口増加の区も見られるが、長期的予測で見れば、関西圏の人口減少や高齢化の進行は避けて通れない状況にある。2020 年の東京オリンピック・パラリンピックの開催決定など、東京では今後も大型プロジェクトがある一方で、大阪では国際的な話題性の少なさもあり、さらなる地盤沈下が懸念される。

そのような状況にある一方で、世界都市ランキングで見れば、大阪は世界の他都市と比較しても上位に位置しており、経済指標については依然として高いレベルを保っている。

また、関西圏の括りで見れば、豊かな自然や我が国の歴史・文化の宝庫であり、「豊かな生活」を楽しむことのできる環境が整っているといえる。さらに、観光の分野では、官民一体となって大阪の発信力強化が取り組まれており、このような展開を通じて、今後の大阪の都市格向上が期待されるところである。

（目的）

以上の背景から、本研究会では、大阪のあるべき「都市格」について検討を深め、民間としての自由な発想から、都市格向上の考え方について提案をとりまとめることを目的に平成 25 年度と 26 年度の 2 ヶ年にわたり、調査研究に取り組んだものである。

特に、大阪への観光はもちろん、定住やビジネスなどの面からも大阪への「集客」を捉えるため、「集客の視点から」、大阪のオリジナリティを明らかにし、市民が誇りを持てるような風格のある都市にしていきたいという視点で検討を進めた。

平成 25 年度は、「世界の都市総合力ランキング 2012」の指標に基づいた考察を深め、都市格の構成要素を明らかにした。

平成 26 年度は、ランキングで大阪の弱みとなっていた「文化的要素」と「共生的要素」の視点から検討を進めるにあたって、「大阪らしさ」に着目し、そこから導き出される魅力を基に、大阪の「都市格」を高めるための方向性を明らかにした。

２．都市格とは

○既往文献から

「都市格」という言葉は、第 19 代大阪府知事を務めた中川望氏が、大正 14 年（1925 年）に設立された「大阪都市協会」の設立記念講演会で、講演「都市格の向上」において論じたのが最初と言われている。

時代を経て、書物としては、大阪ガスの会長で大阪商工会議所会頭であった大西正文氏が平成 7 年（1995 年）に『都市格について－大阪を考える』（創元社）を著して、広く政財界や都市問題研究者の関心を呼んだものとされている。

また、木津川計氏（『上方芸能』発行人、立命館大学名誉教授）は、昭和 43 年（1968 年）に出版した『含羞都市へ』の中で、「都市格」を都市のグレードとしてとらえ、その必要性を説いている。その後、平成 20 年（2008 年）には、『都市格と文化～大阪から全国へ～』（自治体研究社）を出版し、再び「都市格」について論じている。

宮本憲一氏（大阪市立大学・滋賀大学名誉教授）は、『持続可能な社会に向かって』（岩波書店、2006 年）で、「都市格」のことについて触れている。

それぞれの既往文献の中で、どのように「都市格」の構成要素を捉えているのかを整理すると、下表のようになる。

著者名・文献名	「都市格」の構成要素
大西正文 **『都市格について－大阪を考える』**	＜必要条件＞ ・住みたい都市 ・経済活力のある都市 ・豊かな市民意識を育む都市 ＜十分条件＞ ・中小企業が輝く都市 ・歴史や文化が息づく都市 ・アジア・太平洋地域との共栄を図る都市
宮本憲一 **『持続可能な社会に向かって』**	＜都市格の基本＞ ・安全で健康なまち ・住み心地が良い ・市民の自治があり、コミュニティあること
木津川計 **『都市格と文化～大阪から全国へ～』**	＜都市格を定める 3 条件＞ ・文化のストック ・景観の文化性 ・発信する情報

出所：木津川計『都市格と文化～大阪から全国へ～』（2008 年）より整理

〇平成 25 年度第 1 回研究会から

本研究会では、平成 25 年度第 1 回研究会において、明治大学専門職大学院長・一般財団法人森記念財団都市戦略研究所理事の市川宏雄教授を招き、一般財団法人森記念財団都市戦略研究所が作成する「世界の都市総合力ランキング　Global Power City Index 2012」について紹介していただいた。

このランキングは、「地球規模で展開される都市間競争下において、より魅力的でクリエイティブな人々や企業を世界中から惹きつける、いわば都市の“磁力”こそが“都市の総合力”であるとの観点に立って、世界の主要都市（2012 年版は世界 40 都市）の総合力を評価し、順位付けした日本で初めて（2008 年～）の取り組み」とされている。

また、都市の力を表す分野として 6 つの分野を対象にしており、仮に、この「都市の力」を「都市格」と同義語で捉えると、下表のようになる。

資料名	「都市格」の構成要素
「世界の都市総合力ランキング Global Power City Index 2012」	＜都市の力を表す主要な 6 分野＞ ・経済 ・研究・開発 ・文化・交流 ・居住 ・環境 ・交通・アクセス

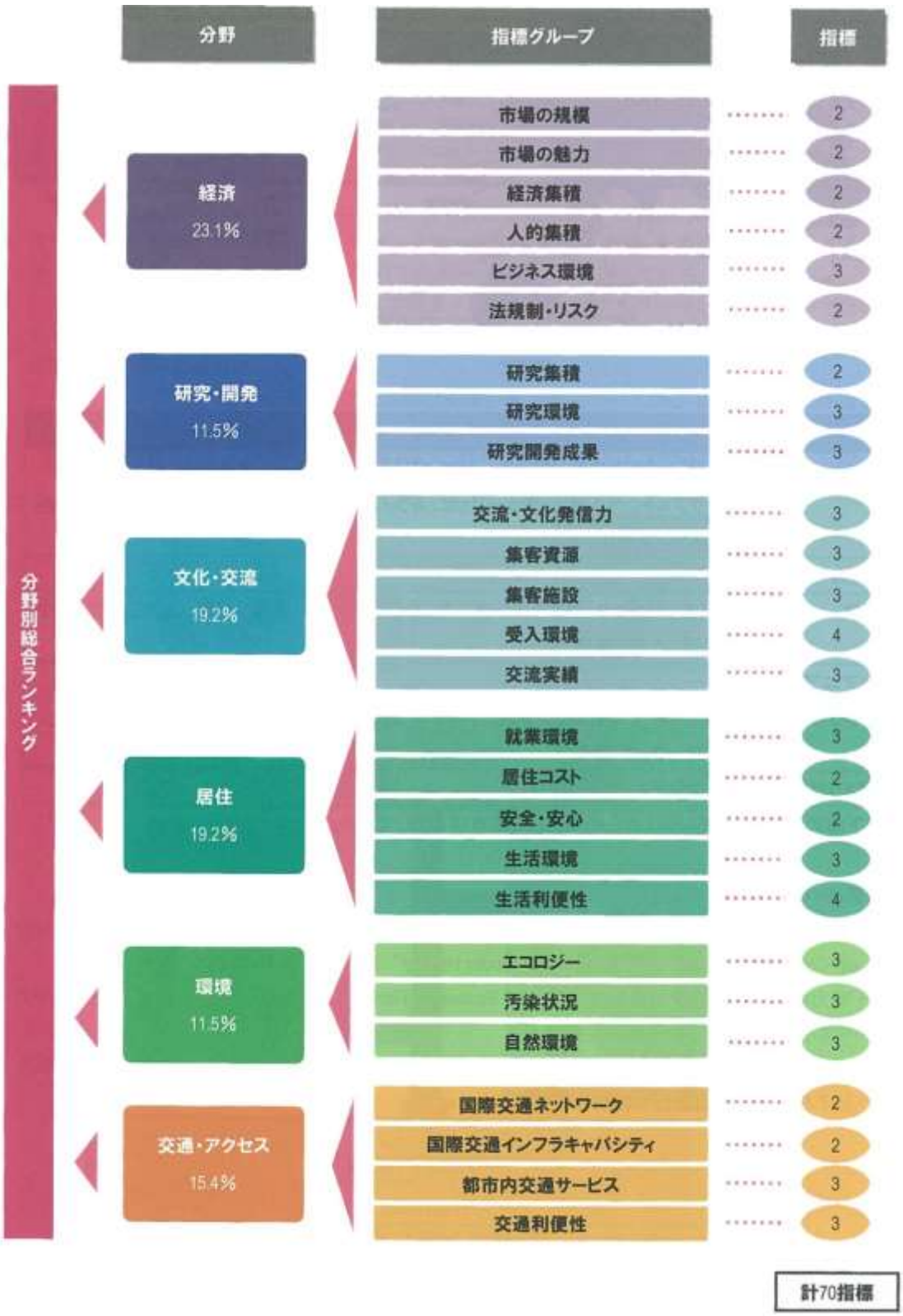
分野別ランキングの作成フローは次頁のとおりであるが、70 の指標を基に「指標グループ」を構成し、最終的には 6 つの分野から「都市の総合ランキング」を導き出している。

6 つの分野では指標の数が異なり、全体を 100%とすると、次のような重み付けの違いがある。

6 つの分野	重み付け
経済	23.1%
研究・開発	11.5%
交流	19.2%
居住	19.2%
環境	11.5%
交通・アクセス	15.4%

注：四捨五入の関係で、上記の合計は 100%にならない

図　GPCI-2012 の分野別ランキングの作成フロー



出所：『世界の都市総合力ランキング　Global Power City Index 2012（概要版）』

〇平成 25 年度第 3 回研究会から

平成 25 年度第 3 回研究会において、明治学院大学の服部圭郎教授を招き、「都市の格を高める処方箋」と題して講演していただいた。

その中で、「都市の格の構成要素」として、次の 6 つの要素について提案があり、欧州を中心とする外国諸都市の事例が紹介された。

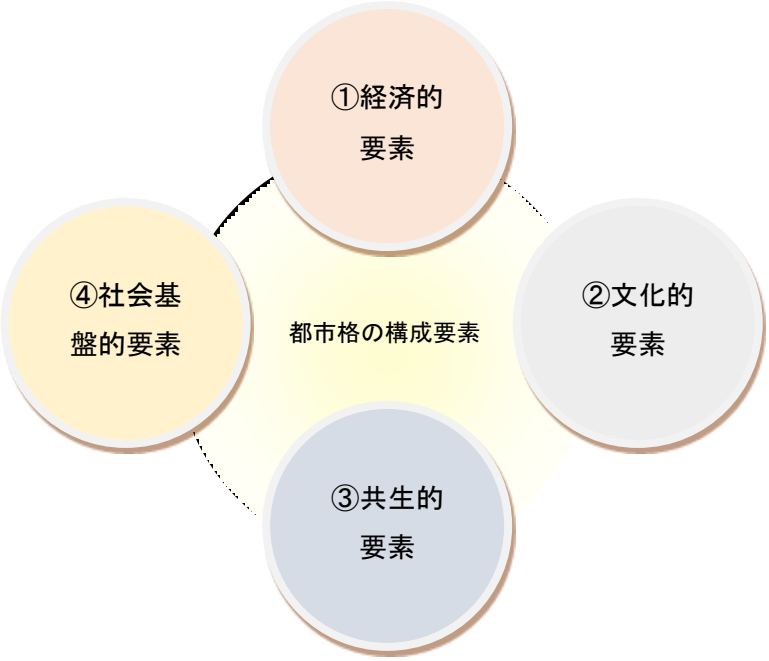
「都市格」の構成要素	解説
・オーセンティシティ	・本物らしさ。偽物ではないこと ・日本では圧倒的に京都がオーセンティシティを有する都市である ・一方で、最新なものでもオーセンティシティを有することは可能である
・多様性	・都市の根源的な魅力は多様性にある ・多様性は、都市のレジーリエンス（強靭力）とも関係があり、クリエイティビティ（創造性）とも関係がある ・この多様性を発現させるために、特に多様性に劣る都市は、それを獲得するために多くの努力をしている
・アクセシビリティ（公平性＝開放性＝市民の参画度（参画意識））	・都市の魅力を発現させるための極めて重要な要件 ・アクセシビリティに富んだ社会（コミュニティ）
・人を大切にしているか（大切にされていると思えるか）	・都市のもっとも重要な構成要素は「人」 ・この「人」が大切にされていることのレベルによって、都市の格が決まる
・アイデンティティ	・その都市らしさをしっかりと有していること ・他都市とは区別できるだけの個性を有していること ・都市間競争力の優劣を決める重要な要素 ・アイデンティティを自己認識し、それに加えて、しっかりと発信をして、他者にも認識してもらうことが重要
・文化的要素	・都市は文化を育み、文化を醸成する空間であり、機会である ・この機能が優れている都市ほど、その格は高まる ・文化的要素を付加することで、都市の格を高めようとするのは、安易ではあるが、簡単な処方箋である

出所：講演会資料より作成

〇本研究会における「都市格」の構成要素の定義

以上の内容を参考にして、本研究会では、「都市格」は「①経済的要素」、「②文化的要素」、「③共生的要素」、「④社会基盤的要素」の４つの構成要素から成り立つものと定義した。

なお、主に経済的要素は「都市力」として別個に扱う考え方もあるが、本調査研究では、経済的要素についても「都市格」に含むものとして捉えることとする。



（参考）

参考資料 ＼ 要素	大西正文『都市格について－大阪を考える』	宮本憲一『持続可能な社会に向かって』	木津川計『都市格と文化～大阪から全国へ～』	第１回研究会 世界の都市総合力ランキング	第３回研究会 服部圭郎教授の提案
①経済的要素	・経済活力のある都市 ・中小企業が輝く都市		※経済的要素は「都市力」として「都市格」とは別扱い	・経済 ・研究・開発	
②文化的要素	・歴史や文化が息づく都市		・文化のストック ・景観の文化性 ・発信する情報	・文化・交流	・オーセンティシティ ・アイデンティティ ・文化的要素
③共生的要素	・アジア・太平洋地域との共栄を図る都市			・文化・交流 ・交通・アクセス	・多様性
④社会基盤的要素	・住みたい都市 ・豊かな市民意識を育む都市	・安全で健康なまち ・住み心地が良い ・市民の自治があり、コミュニティあること		・居住 ・環境 ・交通・アクセス	・アクセシビリティ ・人を大切にしているか

「①経済的要素」、「②文化的要素」、「③共生的要素」、「④社会基盤的要素」の４つの構成要素の概要は以下の通りに定義した。

＜構成要素の概要＞

①経済的要素

市場規模や産業集積、ビジネス環境、生産、製造・販売、サービスの各分野にわたって、都市の経済力が優れているかどうか等を表す要素。

②文化的要素

文化・集客資源の豊富さやそれらを楽しめる環境にあるかどうか、MICE 等の受入環境や文化産業の発展可能性、歴史・伝統資源とそれらを享受できるかどうか等を表す要素。

③共生的要素

都市への愛着や誇りを持って、だれもが住みやすく、働きやすい共生社会の仕組みや都市環境が整備されているかどうか、また、海外との交流に優れた国際交通ネットワークや情報などのアクセス性が容易かどうか等を表す要素。

④社会基盤的要素

居住・就業環境をはじめ、安全、快適で、環境に負荷をかけない都市的基盤が整備されているかどうか、生活利便性が確保されているかどうか等を表す要素。

３．都市ランキングからみた大阪の「文化的要素」と「共生的要素」

（１）都市総合力ランキングにおける大阪のポジション

「世界の都市総合力ランキング　Global Power City Index 2012」によると、主要 40 都市の中で、大阪は 17 位であり、第 2 グループに位置づけられる。

次頁のように、40 都市のランキングでは、ロンドン、ニューヨーク、パリ、東京のトップ 4 は別格の総合力であり、「世界都市」としての地位も確立しているといえる。

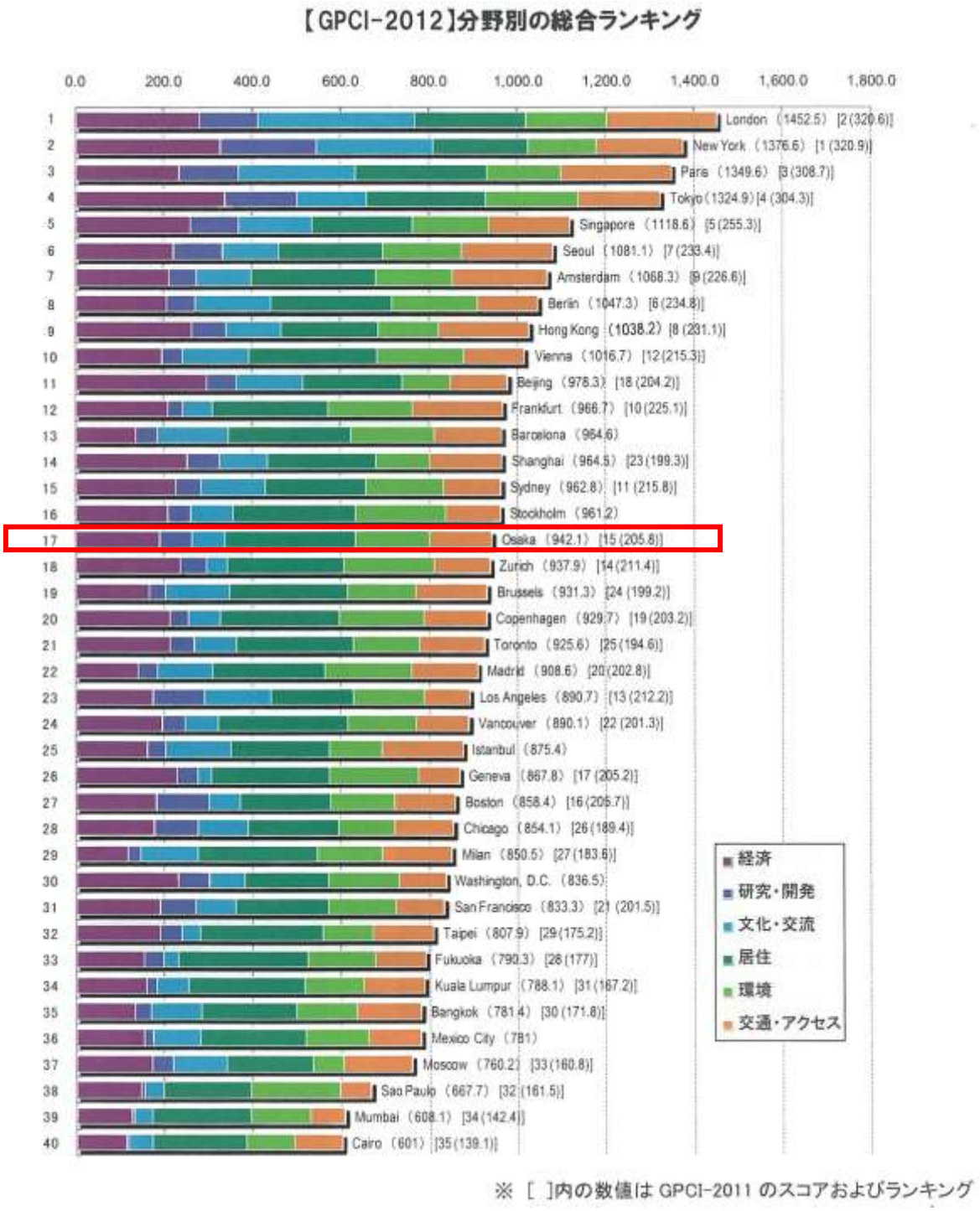
また、アジア各都市もランキングは上昇しており、特に、「経済」、「文化・交流」、「交通アクセス」のポイントが伸びているとされる。国家的規模で経済発展が著しいことを背景に、大規模な国際展示会や国際会議が開催され、そのための展示場等インフラ整備が進んでいるとともに、交通アクセスについても、アジア地域のハブを目指した国際空港の建設が進むなど、経済的勢いが強いことに起因しているといえる。

図　GPCI－2012 の対象 40 都市

エリア	都市
ヨーロッパ	マドリッド、<u>バルセロナ</u>、ロンドン、パリ、ブリュッセル、アムステルダム、ジュネーブ、フランクフルト、ベルリン、チューリッヒ、ミラノ、コペンハーゲン、ウィーン、<u>ストックホルム</u>、<u>イスタンブール</u>、モスクワ
アフリカ	カイロ
アジア	ムンバイ、バンコク、クアラルンプール、シンガポール、香港、北京、上海、台北、ソウル、福岡、大阪、東京
オセアニア	シドニー
北アメリカ	バンクーバー、サンフランシスコ、ロサンゼルス、シカゴ、トロント、<u>ワシントンD.C.</u>、ニューヨーク、ボストン
中南アメリカ	<u>メキシコシティ</u>、サンパウロ

※下線の都市は、GPCI-2012 から新加入した都市（5 都市）である。

出所：『世界の都市総合力ランキング　Global Power City Index 2012（概要版）』



出所：『世界の都市総合力ランキング　Global Power City Index 2012（概要版）』

（２） ４つの構成要素から見た大阪の特徴

１） ４つの要素による再集計の考え方

世界の総合都市ランキング 2012 では、「経済」「研究・開発」「文化・交流」「居住」「環境」「交通・アクセス」の 6 分野に関する 70 種類のデータを指標化して都市の評価を行っている。

この各データについて、本研究会で定義した都市格を構成する 4 つの要素「①経済的要素」、「②文化的要素」、「③共生的要素」、「④社会基盤的要素」で再集計し、都市格向上に向けた大阪の強み、弱みを把握する。

なお、「③共生的要素」については、世界の総合都市ランキング 2012 で用いている指標だけでは十分に表現できないため、独自に「都市への誇り・求心力」「都市への愛着」「コミュニティ」を追加した。

【ランキング算出方法】

・「世界の都市総合力ランキング 2012」では、以下の方法でランキングを設定している。

①調査対象 40 都市の中で最もよい値の都市を 100 として 70 種類のデータをそれぞれ指標化。

②関連するデータを 26 種類の指標グループとして集計。

③指標グループを「経済」「研究・開発」「文化・交流」「居住」「環境」「交通・アクセス」の 6 分野に分類し、その指標値の和をスコアとして集計。そのスコアによりランキングを決めている。

・26 種類の指標グループについて、都市格を構成する要素である「①経済的要素」、「②文化的要素」、「③共生的要素」、「④社会基盤的要素」で再分類し、要素ごとのスコア、ランキングを算出した。

・「③共生的要素」に、本研究会独自で追加した「都市への誇り・求心力」「都市への愛着」「コミュニティ」については、各都市を比較する定量的な指標を新たに得ることが難しいため、ここでは「世界の都市総合力ランキング 2012」で示されている 26 種類の指標グループのみでスコア、ランキングを算出している。

各要素とデータの関係

【世界の総合都市ランキング2012での分類】

分野	指標グループ		指標
経済	市場の規模	1	GDP
		2	一人当たりGDP
	市場の魅力	3	GDP成長率
		4	経済自由度
	経済集積	5	証券取引所の株式時価総額
		6	世界トップ300企業
	人的集積	7	従業者数
		8	対事業所サービス業従業者数
	ビジネス環境	9	賃金水準
		10	優秀な人材確保の容易性
		11	一人当たりオフィス面積
	法規制・リスク	12	法人税率
		13	政治、経済、商機のリスク
研究・開発	研究集積	14	研究者数
		15	世界トップ200大学
	研究環境	16	数学・科学に関する学力
		17	外国人研究者の受入態勢
		18	研究開発費
	研究開発成果	19	産業財産権（特許）の登録数
		20	主要科学技術賞受賞者数
		21	研究者の交流機会
文化・交流	交流・文化発信力	22	国際コンベンション開催件数
		23	主要な世界的文化イベント開催件数
		24	コンテンツ輸出額
	集客資源	25	アーティストの創作環境
		26	ユネスコ世界遺産（100km圏）
		27	文化・歴史・伝統への接触機会
	集客施設	28	劇場・コンサートホール数
		29	美術館・博物館数
		30	スタジアム数
	受入環境	31	ハイクラスホテル客室数
		32	ホテル総数
		33	買物の魅力
		34	食事の魅力
	交流実績	35	外国人居住者数
		36	海外からの訪問者数
		37	留学生数
居住	就業環境	38	完全失業率
		39	総労働時間
		40	従業員の生活満足度
	居住コスト	41	賃貸住宅平均賃料
		42	物価水準
	安全・安心	43	人口当たり殺人件数
		44	災害に対する脆弱性
	生活環境	45	健康寿命
		46	地域コミュニティの良好さ
		47	人口当たりの医師数
	生活利便性	48	人口密度
		49	外国人人口当たりの外国人学校数
		50	小売店舗の充実度
		51	飲食店の充実度
環境	エコロジー	52	ISO 14001取得企業数
		53	再生可能エネルギーの比率
		54	リサイクル率
	汚染状況	55	CO_2排出量
		56	SPM濃度
		57	SO_2濃度・NO_2濃度
	自然環境	58	水質
		59	都心部の緑被状況
		60	気温の快適性
交通・アクセス	国際交通ネットワーク	61	国際線直行便就航都市数
		62	国際線直行貨物便就航都市数
	国際交通インフラキャパシティ	63	国際線旅客数
		64	滑走路本数
	都市内交通サービス	65	公共交通（地下鉄）の駅密度
		66	公共交通の充実・正確さ
		67	通勤・通学の利便性
	交通利便性	68	都心から国際空港までのアクセス時間
		69	人口当たり交通事故死亡者数
		70	タクシー運賃

【今回再分類を行った4要素と指標の関係】

要素	指標グループ		指標
①経済的要素	市場の規模	1	GDP
		2	一人当たりGDP
	市場の魅力	3	GDP成長率
		4	経済自由度
	経済集積	5	証券取引所の株式時価総額
		6	世界トップ300企業
	人的集積	7	従業者数
		8	対事業所サービス業従業者数
	ビジネス環境	9	賃金水準
		10	優秀な人材確保の容易性
		11	一人当たりオフィス面積
	法規制・リスク	12	法人税率
		13	政治、経済、商機のリスク
	研究集積	14	研究者数
		15	世界トップ200大学
	研究環境	16	数学・科学に関する学力
		17	外国人研究者の受入態勢
		18	研究開発費
	研究開発成果	19	産業財産権（特許）の登録数
		20	主要科学技術賞受賞者数
		21	研究者の交流機会
②文化的要素	交流・文化発信力	22	国際コンベンション開催件数
		23	主要な世界的文化イベント開催件数
		24	コンテンツ輸出額
	集客資源	25	アーティストの創作環境
		26	ユネスコ世界遺産（100km圏）
		27	文化・歴史・伝統への接触機会
	集客施設	28	劇場・コンサートホール数
		29	美術館・博物館数
		30	スタジアム数
	受入環境	31	ハイクラスホテル客室数
		32	ホテル総数
		33	買物の魅力
		34	食事の魅力
③共生的要素	都市への誇り・求心力		都市イメージの良さ、シンボル性、都市プロモーション活動の活発さ 等
	都市への愛着		定住意向、住民の生活満足度、住民の文化・歴史・伝統への接触機会、まちづくり活動の活発さ 等
	コミュニティ		住民のコミュニティ活動への参加状況、祭りなど地域固有の伝統行事の有無、見守りなど地域福祉活動の活発さ 等
	交流実績	35	外国人居住者数
		36	海外からの訪問者数
		37	留学生数
	国際交通ネットワーク	61	国際線直行便就航都市数
		62	国際線直行貨物便就航都市数
	国際交通インフラキャパシティ	63	国際線旅客数
		64	滑走路本数
④社会基盤的要素	就業環境	38	完全失業率
		39	総労働時間
		40	従業員の生活満足度
	居住コスト	41	賃貸住宅平均賃料
		42	物価水準
	安全・安心	43	人口当たり殺人件数
		44	災害に対する脆弱性
	生活環境	45	健康寿命
		46	地域コミュニティの良好さ
		47	人口当たりの医師数
	生活利便性	48	人口密度
		49	外国人人口当たりの外国人学校数
		50	小売店舗の充実度
		51	飲食店の充実度
	エコロジー	52	ISO 14001取得企業数
		53	再生可能エネルギーの比率
		54	リサイクル率
	汚染状況	55	CO_2排出量
		56	SPM濃度
		57	SO_2濃度・NO_2濃度
	自然環境	58	水質
		59	都心部の緑被状況
		60	気温の快適性
	都市内交通サービス	65	公共交通（地下鉄）の駅密度
		66	公共交通の充実・正確さ
		67	通勤・通学の利便性
	交通利便性	68	都心から国際空港までのアクセス時間
		69	人口当たり交通事故死亡者数
		70	タクシー運賃

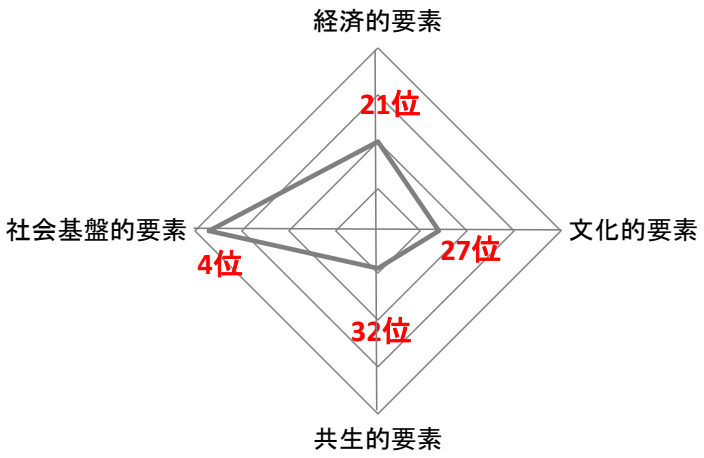
２） ４つの要素から見た大阪の特徴

大阪のランキングを見ると、４つの要素のうち「共生的要素」は 40 都市中 32 位、「文化的要素」は 27 位と順位が低くなっている。ヨーロッパの個性的な都市として知られるアムステルダム、ブリュッセル、バルセロナ、ミラノと比べても、この２つの要素は低く、大阪の“弱み”であると言うことができる。

一方、「社会基盤的要素」は４位と順位が高く、居住面に関しては大阪の“強み”となっている。ちなみに、研究開発などを含めた「経済的要素」は、40 都市の中では平均的な 21 位となっている。

ただし、「世界の都市総合力　ランキング 2012」の指標は、比較できる指標に限界もある点に注意が必要である。

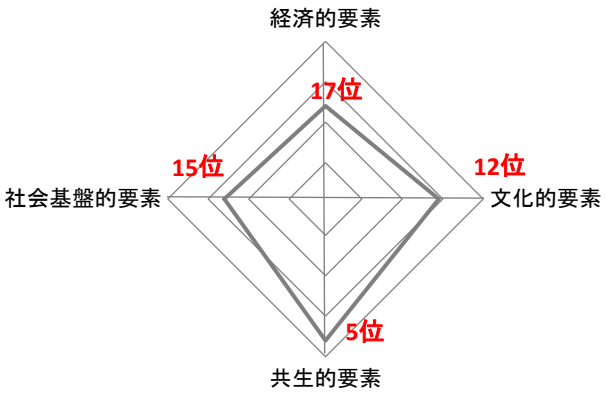
大阪のランキング



（参考）ヨーロッパの個性的な都市

アムステルダム（オランダ、首都）

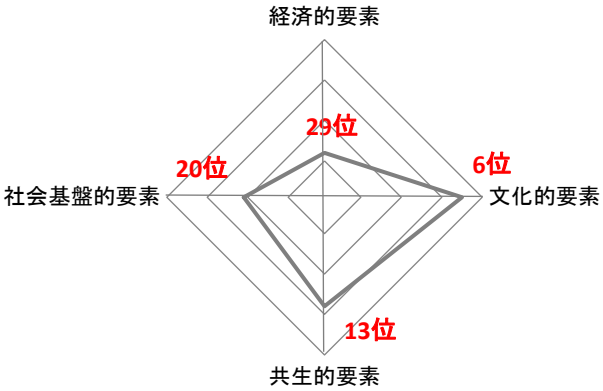
人口：781,000 人（国内１位）　面積：165km^2　人口密度：4,730 人/km^2



商業・観光が盛んで、オランダ銀行などオランダの多くの大企業が本社機能を置いている。また、近くにはヨーロッパでも旅客数の多いスキポール空港があり、国際的なヒト、モノの動きが活発である。

ブリュッセル（ベルギー、首都）

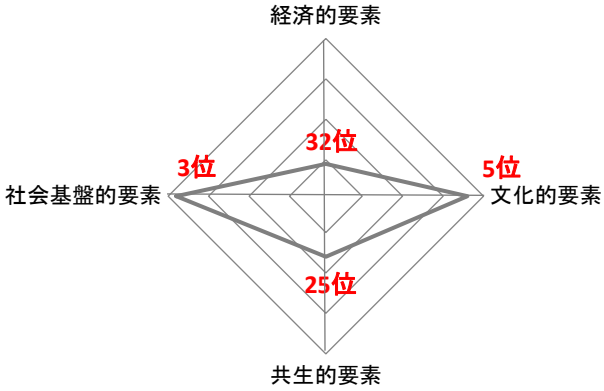
人口：1,119,000 人（国内１位）　面積：161km^2　人口密度：6,934 人/km^2



欧州委員会やNATO等の国際機関の本部が立地。グランプラス（大広場）に代表されるような世界遺産も周辺に多く、伝統的な祭りやカーニバルなどユネスコ無形遺産が多いのも特徴。

バルセロナ（スペイン）

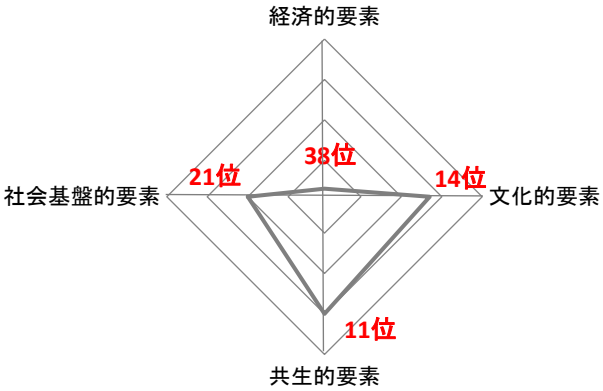
人口：1,615,000 人（国内２位）　面積：98km^2　人口密度：16,449 人/km^2



ガウディの作品群に加え、ピカソ、ダリ、ミロを輩出してきた文化都市。海と山に囲まれ豊な食材に恵まれており、食事の魅力も強み。近年、旧市街地で選択的に建築物を取り壊し広場などの再生を行う「多孔質戦略」が注目されている。

ミラノ（イタリア）

人口：1,342,000 人（国内２位）面積：182km^2　人口密度：7,382 人/km^2



北部イタリアにおいて最大の都市で商業、工業、金融の中心。ミラノコレクションで知られる世界に冠たるファッションの都。

４．大阪らしさとは

「都市格」を高めるにあたって、一般的な都市の性格を強化するだけでは、その都市ならではの優位性を打ち出すことが難しい。先に整理した都市格の４つの構成要素を見ると、「文化的要素」こそが「大阪らしさ」を表現するもっとも重要な要素であるということができるのではないだろうか。

都市力ランキングの指標を用いた大阪の評価では、「文化的要素」が大阪の弱点となっていた。しかし、その指標について詳しく見ると、数値化ができ、かつ都市間比較が可能なものに限定されたものである。また、日本の歴史・文化遺産が集積している京都や奈良までを大阪のエリアとして広くとらえるならば、「大阪」の文化的要素（魅力）は、指標化されている以上に高い都市であると示すこともできる。一方で、今日の大阪の文化的要素が十分に認識され、伝わっているのか、集客の視点から見て、かつてと比べて都市格は下がっているのではないかという指摘もある。

そこで、平成 26 年度の調査研究では、「大阪らしさ」をあらためて確認し、大阪はどのテーマにより、都市の独自性と優位性を図ることができるのか。そのことにより、“弱み”とされている「文化的要素」と「共生的要素」の再構築を意識しながら、大阪の都市格を高める「魅力」に結びつけていくこととした。

(1) 大阪らしさを表す 10 のテーマ

ここでは、主に近代以降の「大阪らしい」と思われるワードをランダムに抽出し、それらを 10 のテーマとして、下表のようにグルーピングした。

テーマ	大阪らしさを表すワード（例）
①商い	商店街、道修町、松屋町、えべっさん、黒門市場、算盤勘定
②交易	沖縄、鶴橋、リトルコリア、在日、関空、船場、領事館、 南蛮交易、先物取引、総合商社、ＦＭ外国語放送（FM COCOLO）
③庶民性	おばちゃん、大阪弁、長屋、文化住宅、ヒョウ柄、おせっかい、いちびり、 お寺、助け合い、人情、だんじり
④エンターテインメント	文楽、文学、上方落語、お笑い、野球、ダンス、ライブハウス、ネオン、 花街、ビアガーデン
⑤食	割烹、たこ焼き、お好み焼き、串カツ、ホルモン、回転寿司、法善寺横丁、 きつねうどん、出汁、昆布、なにわ野菜、茅渟の海、茶の湯
⑥起業	起業家、発明、やってみなはれ、インスタントラーメン レトルトカレー、おもちゃ付き菓子、国産洋酒
⑦ものづくり産業	家電、繊維産業、中小製造業
⑧民主導	自治都市、適塾、社会福祉政策の歴史、新聞事業
⑨近代遺産	近代建築、御堂筋、万博、（大阪城；市民再建）、通天閣
⑩合理的都市構造	地下鉄、環状線、デパート、郊外住宅地開発、 大阪駅前ビル（市街地改造事業）、船場センタービル（後に立体道路制度）

参考資料：『大阪語（カタ）ログ』（2010 年、関西経済同友会）

⑵ 大阪が有していた３つの魅力と「人のつながり」

整理した 10 のテーマについて、さらに大きく分類すると、「受容力」、「発想力」、「伸展力」という３つの“魅力”に括ることができる。

そして、これら３つの“魅力”こそが、これまで大阪が強みとしてきた「都市格」の特徴であるといえるのではないだろうか。

魅力１　受容力

大阪では、暮らしのあらゆる場面で、垣根のない本音の付き合いをモットーとするところがあり、庶民性のある文化の中から、優れたエンターテインメントや豊かな食文化が育まれてきた。

また、九州や沖縄など国内だけでなく、歴史的背景や文化的つながりによって、アジアの国の人々も多く住み、多文化共生の社会を実践してきたことも大阪の特色である。

この受容する力は、大阪の大きな特徴であり、魅力である。

魅力２　発想力

かつての大阪は、多くの起業家を輩出する都市であり、進取の気性に富んだ空気に満ちていた。

江戸時代に「天下の台所」として発展した大阪には、各地から有力な商人が集まり、豪商を輩出した。その後、明治期には「東洋のマンチェスター」として一大商工業都市に変貌し、新興の起業家が活躍する。百貨店、家電、食品、日用品など、今も生活に根ざした便利で豊かな商品やサービスの中には、大阪で発明されたものが多い。

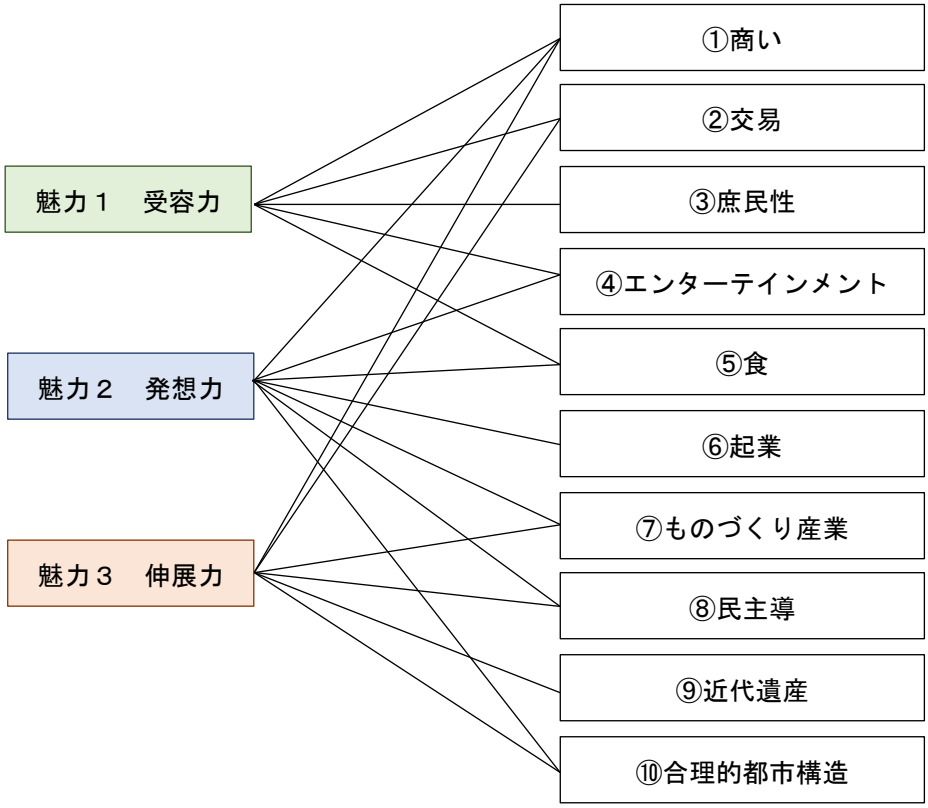
「０から１へ」、モノやサービスを生み出す源泉を大阪の都市は有してきた。

魅力３　伸展力

発明や起業だけでなく、新たな商品・サービスを「生業（なりわい）」として成功させ、日本を代表するグローバル企業が大阪から数多く生まれた。また、それらの企業を支える、技術力の高い多くの中小企業が生まれ、高度経済成長期の日本を支えるものづくり産業の発展につながっていった。

都市づくりにおいても、大阪は、全国に先駆けて都市開発を手掛け、合理的な都市構造を形成し、全国に普及するモデルとして新たな事業や法制度に結びついた事例も多い。

大阪らしさを表す 10 のテーマと３つの魅力



ベースは「人のつながり」

さらに、グルーピングした 10 のテーマを並べて共通項をみると、何らかの「人のつながり」をベースに成り立っていることがわかる。

特に、日本の中での「大阪」は、大都市でありながらも、人と人とのつながりが強い要素が今も残り、それがイメージとして醸成され、現実の暮らしやビジネスにおいてもそのつながりの強さを活かして、多くの人を惹きつける「都市格」が形成されてきたといえるであろう。

５．大阪の都市格を高めるために

(1) 都市格向上のための視点

今日、「大阪らしさ」の魅力が十分に発揮されていないことに、大阪の「都市格」や他都市との相対的ポジションが弱まっている原因がある。

前述した 10 のテーマは、都市ランキングでは、いずれも大阪の“弱み”とされている「文化的要素」と「共生的要素」につながるもので、例えば、「③庶民性」、「④エンターテインメント」、「⑤食」、「⑨近代遺産」などは、「文化的要素」に結びつけることができる。また、「②交易」をはじめ、全体のベースになる「人のつながり」は、「共生的要素」そのものである。したがって、これまで強みとしてきた大阪の「受容力」、「発想力」、「伸展力」の３つの魅力を再強化することによって、大阪の都市格向上につなげることを提案する。

視点１

【受容力】多様性を受け入れ、つながりを増やす

人のつながりを大事にする社会を取り戻し、思いやりを持って他者と共に生きられる環境を再構築する。そのためにも、交流しやすい都市空間を整備し、地域コミュニティやインバウンドによる外国人との新たなつながりの場を創造する。また、他の大都市のように消費の量で競争するのではなく、多様性を持って、質を高めていくことを重視する。

視点２

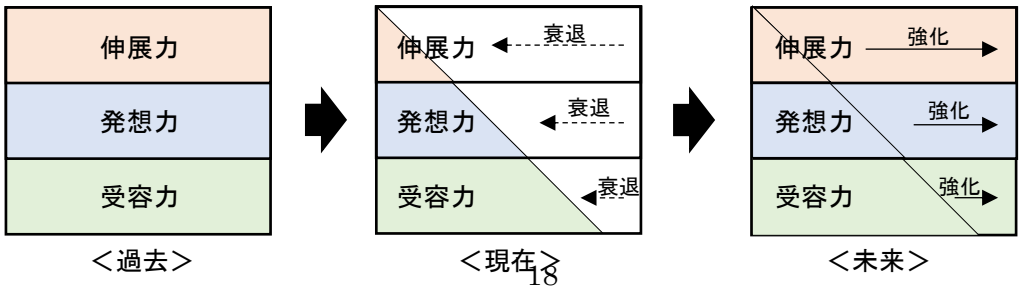
【発想力】新たな発想が生まれる環境をつくり、チャレンジを促す

未来に予想される社会的課題に対して、これまでの視点を変えてあるいは拡大して、新たな発想のもとで技術革新やサービスの創出に挑戦し、事業としても成立する、ソーシャルインパクトの高いビジネス環境を創造する。

視点３

【伸展力】創り出された新しいモノやコトを伸ばす

従来の概念を変えて良循環を生み出す、新しい社会システムの構築によって、ブレークスルーしやすい都市の風土を創り出し、誰もが潜在能力を伸ばせる協創環境やシステムを創造する。



(2) 強化に向けた基本方向

ここでは都市格向上の視点を再び強化するために、今後、行政や民間、経済団体等が取り組むべき「基本方向」を表し、それぞれに具体的アイデアの例を示す。

視点	強化に向けた基本方向	アイデア例示
受容力	①国際交流環境の充実	・親大阪派の増大（海外留学生の受け入れ環境） ・宿泊環境の充実（コンバージョン型施設）
	②ダイバーシティ（多様な人材が活躍できる環境）の整備	・多言語環境の整備（自動販売機、ロボット等） ・ユニバーサルデザインの強化（パラリンピックを契機に） ・女性や高齢者等の創業支援
	③つながりの再生	・コミュニティ再生のセンター機能の再評価（寺・神社、学校・園）
	④魅力（ブランド）の形成	・玄関口（新大阪等）の魅力向上 ・和食（世界無形文化遺産）のアピール ・職住遊近接型ライフスタイルの発信
発想力	⑤チャレンジ環境の充実	・地方裁量型規制緩和の導入（自治体主導型特区等）
	⑥子どもの能力を開花させる機会の充実	・創造性教育・起業家教育の充実
伸展力	⑦協創環境の創出	・ナレッジキャピタル等サイエンス拠点の活用
	⑧情報発信の支援強化	・ワールドクラスの賞創設や国際メッセの開催

＜アイデア例示＞

【受容力】多様性を受け入れ、つながりを増やす

●親大阪派の増大（海外留学生の受け入れ環境）

（背景と考え方）

現在留学生の支援は（公財）大阪国際交流センターにおいて就職支援等が行われている以外は、基本的に各大学が自主的な取り組みをしている状況にある。留学生は、観光客と比べて滞在期間も長く、より深く大阪の文化や生活に触れる機会が多いことから、大阪の良さを理解し、発信してもらうことが都市格向上につながると期待される。

したがって、今後、海外からの留学生をこれまで以上に増やしていくためにも、生活支援や就職支援など留学生の受入環境の整備を行う必要がある。

（取組イメージ）

・留学生の日本での生活の一体的支援（生活支援や交流支援）

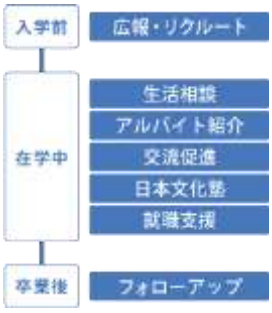
・企業のインターンシップ受入や就職採用における支援

＜事例＞

福岡県留学生サポートセンター

県内の大学、自治体等の留学生支援情報を一元的に把握し提供すると共に、海外からの優秀な留学生の確保、アルバイトの開拓・斡旋、就職活動の支援、交流促進等、一体的な支援を行う。

同センターの運営協議会会長は福岡県知事、副会長は九州大学総長と福岡商工会議所会頭が務めており、産官学の連携による運営体制が組まれている。



●宿泊環境の充実（コンバージョン型施設）

（背景と考え方）

インバウンドの伸展により、大阪のホテルは、高い客室稼働率を推移しており、今後の受入環境として宿泊施設の不足が懸念される。

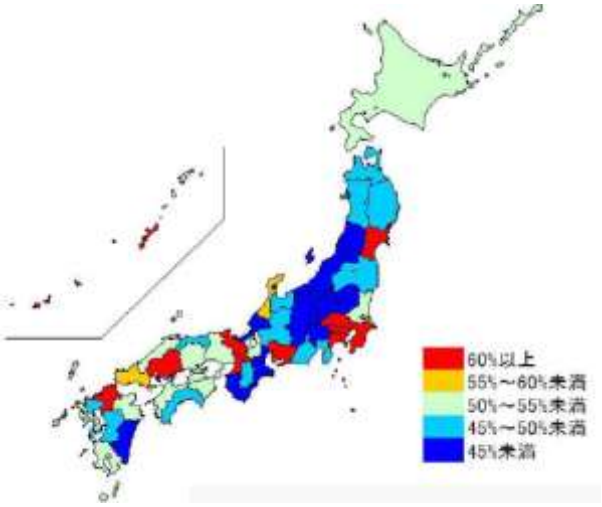
宿泊施設数の拡大に向けては、新規のホテル建設だけでなく、従来、宿泊用途ではなかった既存建物のコンバージョンによって、空き家化の課題解決を図り、同時に新たなビジネスチャンスを拡大することが考えられる。

（取組イメージ）

・ワンルームマンションの用途転用

・町屋のゲストハウスとしての活用

図　都道府県別の客室稼働率



資料：観光庁「宿泊旅行統計調査（平成 26 年４月～６月・暫定値）」

●**多言語環境の整備（自動販売機、ロボット等）**

（背景と考え方）

英語圏や中国語圏の観光客だけでなく、東南アジアを始め、多様な国や民族の人々が大阪を訪れるようになってきている。また、今後は、団体旅行だけでなく、アジアからの観光客も個人旅行が増えることが予想される中で、多言語に対応したおもてなしやサービスの提供が求められる。

大阪は、テクノロジー文化を有するとともに、ロボット開発などでも研究開発や事業化に力を入れてきており、大阪のものづくり企業や大学の研究開発力を活かした多言語コミュニケーションのシステムや製品開発によって、海外から多くの観光客が訪れやすい環境の整備が期待される。

（取組イメージ）

・多言語対応自動販売機の開発・設置

・多言語案内ロボットの開発・設置

●**ユニバーサルデザインの強化（パラリンピックを契機に）**

（背景と考え方）

ユニバーサルデザインとは、「ユニバーサル＝普遍的な、全体の」という言葉が示しているように、「すべての人のためのデザイン」を意味し、障がいの有無や年齢、性別、国籍などにかかわらず、最初からできるだけ多くの人が利用可能であるようにデザインすることを指す。

今後、さらに高齢化が進み、外国からの多くの観光客を迎える大阪の都市づくりにおいても、移動や利用、情報へのアクセスなどあらゆる場面において重要な考え方であり、2020年の東京オリンピック・パラリンピックを契機として、ユニバーサルデザインの強化が求められる。

（取組イメージ）

・パラリンピックアスリートの視点を活かした施設の点検

・ユニバーサルデザイン都市・大阪のＰＲ

●<u>女性や高齢者等の創業支援</u>

（背景と考え方）

男女別に起業家の年齢層を見ると、男性起業家は 30 歳代と 60 歳代において人数が多くなっており、年代による差があることが分かる。一方で、女性起業家は 30 歳代の人数が多いものの、他はどの年代でもほぼ同数で横ばいとなっており、女性の起業は、男性と比べて少ないことも特徴である。

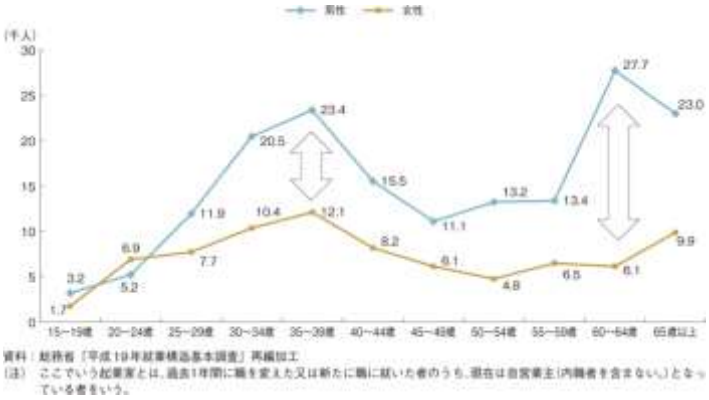
今後、生産年齢人口の減少が避けられない中で、女性や高齢者等の創業を増やしていくことが重要である。

（取組イメージ）

・保育園・学童クラブ機能付きインキュベーション施設の整備

・40～50 代社員向けの社内ベンチャー制度の充実

図　男女別・年代別の起業家数



出典：「2014 年版中小企業白書」（中小企業庁）

●<u>コミュニティ再生のセンター機能の再評価（寺・神社、学校・園）</u>

（背景と考え方）

古くから、集落や地域コミュニティにおいて、人々の心の拠りどころであり、「学び」や「楽しみ」、「癒やし」などに関する多様な機能を担ってきた寺や神社では、人々の考え方や生活習慣の変化、人口減少などにより、その機能が失われつつある。一方で、近年では、宗派を超えて僧侶や宮司が集まり、新たな社会問題の対応に向けた講演や相談会を行うなどの取り組みも始まっている。

また、かつて小学校や幼稚園が担ってきた役割も、教育だけでなく、地域の運動会や祭りなどコミュニティの場でもあった。しかし、少子化の中で統廃合が進み、あるいは子どもを守るためのセキュリティ強化など、学校・園でも取り巻く環境が変化してきている。

大阪で住み、あるいは働く人々が、身近な地域に関心を持ち、自分たちのまちを誇りに思うところから暮らしやすい社会が実現され、大阪の都市格向上につながる。この考え方に立てば、地域における寺や神社、学校・園の役割を再評価し、まちづくりに活かしていくことが必要である。

（取組イメージ）

・学校・園、寺や神社の動向調査や将来推計による議論の喚起

・「寺や神社」、「学校・園」と「地域」との新しい関わり方に関する検討

・途絶えた祭りの復活による地域文化の継承

大蓮寺本堂での声明ワークショップ
（出典：『まちとお寺と幼稚園』（パドマ幼稚園アニュアルレポート 2013－2014）

●<u>玄関口（新大阪等）の魅力向上</u>

（背景と考え方）

東京駅、名古屋駅、京都駅等は、いずれも新幹線駅と JR 在来線のターミナル駅が直結しており、拠点性・利便性が高い。一方で、そうではない新大阪駅は、交通結節点ではあるが、拠点としての魅力が乏しい。平成 26 年（2014 年）は新幹線開業 50 周年を迎えたが、いまだ駅からの周辺地域への動線は複雑で、周辺の土地利用もあまり進んでいない。また、新たな高速交通であるリニア新幹線については、東京・名古屋間の先行開業の方針が示されるなど、今後ますます新大阪駅のポテンシャルが弱まる懸念がある。

集客機能を文化的要素の一つとして捉えたときに、主要な交通結節点である新大阪駅を魅力ある拠点にしていくことは重要であり、新大阪駅及び周辺エリアの魅力アップが大阪の都市格向上にとって必要といえる。

（取組イメージ）

・リニア新幹線導入に向けた将来ビジョンの議論と共有化（周辺土地利用のあり方検討、駅周辺の歩行者動線確保、上方文化を発信する拠点整備）

・うめきた、関空とのアクセスの向上

●<u>和食（世界無形文化遺産）のアピール</u>

（背景と考え方）

2013 年 12 月に「和食；日本人の伝統的な食文化」がユネスコ無形文化遺産に登録された。大阪は「食い倒れのまち」と言われるが、たこ焼きやお好み焼きをはじめとした「粉もん」がクローズアップされがちで、昔からある「割烹文化」や、全国各地からの食材の拠点（天下の台所）として、本来の大阪の魅力が十分に発信されていない。

実際に五感で体験して、和食の繊細さや美味しさを共有できる場づくりが必要である。

（取組イメージ）

・大阪の食文化を具体的に体験できる連携イベントと情報発信

・都心部小学校跡地における食文化発信としての活用

＜事例＞

大阪割烹体験実行委員会

株式会社クリエテ関西（あまから手帖）、株式会社ぐるなび、株式会社ジオード、NPO 法人浪速魚菜の会、大阪観光局、大阪商工会議所、大阪市、大阪府（順不同）で構成。 2013 年 8 月 20 日設立。

●<u>職住遊近接型ライフスタイルの発信</u>

（背景と考え方）

大阪は、大都市でありながら、公共交通や車で 30 分も走れば、郊外に海や山、温泉などの自然環境に恵まれた立地条件にあり、また、京都や神戸、奈良など、歴史と個性あふれる都市にも近く、多様な楽しみを享受できる環境にある。近年では、都心回帰によって都市部に住む人も増え、都市型エンターテインメントを気軽に楽しむことも利点の一つとなっている。

今後、選ばれる都市になるためにも、自然や都市的楽しみだけでなく、教育、医療・福祉、景観、防犯・防災に強いなど、あらゆる面でより一層の魅力的な居住環境を形成し、ブランド力のある大阪のライフスタイルを発信することが求められる。

（取組イメージ）

・老朽化した空き家・空きビルのリストラクチャリング

・大阪のライフスタイルの海外向け発信の強化

【発想力】新たな発想が生まれる環境をつくり、チャレンジを促す

●<u>地方裁量型規制緩和の導入（自治体主導型特区等）</u>

（背景と考え方）

民間事業者や地方自治体等の発案により、地域の特性に応じた規制の特例措置を導入する特区を設けて、構造改革を進める「構造改革特別区域法」が 2003 年 4 月に施行されて 11 年が経過した。この間、多くの特区認定により、規制緩和が進んだ面がある一方で、寄せられたアイデアは、それぞれの規制を担当する省庁で検討され、「緩和しても OK」と判断されたものだけが「規制の特例」となることから、規制の壁が厚いということも指摘されている。

特に地域の課題解決に向けた民間事業者の提案に対しては、特区認定の権限を地方自治体（大阪）に任せ、速やかな環境整備が求められる。

（取組イメージ）

・地方自治体権限の特区認定

・地方出先機関のフォロー体制強化

●<u>創造性教育・起業家教育の充実</u>

（背景と考え方）

我が国の教育は知識詰め込み型であり、子どもたちの創造性や発想力を高めるような教育プログラムが整備されていないとの指摘が以前から多い。そのような中で 1990 年代から 2000 年代にかけて「ゆとり教育」が学習指導要領で取り入れられたが、今度は、学習量の不足が懸念され、今日では「脱ゆとり教育」への揺れ戻しが起こっている。

大阪では、緒方洪庵が江戸時代後期に大坂・船場に開いた蘭学の私塾である「適塾」があり、幕末や明治維新にかけて活躍した多くの人材を輩出した歴史がある。在阪企業や起業家、大学等が協力し、子どもたちの潜在能力や創造性が発揮されるような大阪独自の教育環境を整備することで、多くの将来を担う人材を輩出することが期待される。

（取組イメージ）

・在阪企業や大学による子ども向け教育プログラムの開発・場の提供

・海外トップ大学学生のサマーキャンプ受入強化

【伸展力】創り出された新しいモノやコトを伸ばす

●<u>ナレッジキャピタル等サイエンス拠点の活用</u>

（背景と考え方）

大阪の科学技術はこれまでの強みでもあり、うめきた・グランフロント大阪にできた「ナレッジキャピタル」は、『企業人、研究者、クリエイター、そして一般生活者などさまざまな人たちがスクランブル交差点のように行き交い、それぞれの知を結び合わせて、新しい価値を生み出す“ 知的創造拠点』として位置づけている。

関西に広げてみると、けいはんな学研都市、国際文化公園都市（彩都）、神戸医療産業都市、京都リサーチパークなど多くの学術研究拠点が整備されてきており、このような資源を活かして、協創の機会を数多く設定することが求められる。

（取組イメージ）

・ナレッジキャピタルへの集客強化

・各学術研究拠点における多様な人材の交流促進

●<u>ワールドクラスの賞創設や国際メッセの開催</u>

（背景と考え方）

新しい取り組みなどを伸ばしていくには、その新しい取り組みを世界に発信することや、世界中から多様な人が集まり、お互いに刺激を与えながら新たなものを創造していく場が必要である。

国際的な賞の授賞式や国際メッセなど、世界の最先端の取り組みが集まり情報発信する場をつくることで、新しい取り組みが大阪で生まれることが期待できるだけでなく、都市イメージの強化も期待でき、それが都市格向上にもつながる。

（取組イメージ）

・国際的な賞の授賞式の開催

・同じテーマでの国際メッセ等の開催

＜事例＞

カンヌ

カンヌ国際映画祭はベルリン国際映画祭、ベネチア国際映画祭と並ぶ世界三大映画祭の一つ。その「祭」に併設され、映画の権利を売買する見本市が、カンヌ・フィルム・マーケットとして開催されている。映画配給に関する権利（劇場公開権、DVD 化権、テレビ放映権など）が主な取引対象。一方で、プロデューサーや監督などによるパートナー探しや企画の売り込みも活発に行われている。

(3) 市民が誇る「大阪」をめざして

本来、大阪には魅力的な地域資源が数多くあり、その厚みのある歴史・文化の中で、多様な要素を受け入れ、集積し、大阪ならではの「人のつながり」を形成してきた。そこには、都市ランキングデータには表れない「文化的要素」と「共生的要素」の強みが存在している。

しかし、機能的な都市を重視する風潮の中で、これまでの大阪の強みが忘れられ、また市民にとっても、大阪への愛着や誇りが一部失われてきているところに、大阪の都市格が弱くなってきた要因の一つがあるといえるのではないだろうか。

まずは、グローバル化の時代において、あえて、地に足の着いたローカル性に着目し、市民一人ひとりが大阪の地域資源を再評価し、愛着と誇りを持つことから、大阪の都市格再生の一歩として始めたい。

そして、平成 26 年度の第 1 回研究会で紹介された「オリンピック・文化プログラム」をターゲットにして、具体的取組を進めることを提案する。東京オリンピック・パラリンピックが 2020 年に実施されるというはっきりした時間軸の目標があることによって、速やかな行動が期待されるからである。

さらに、京都や奈良、神戸などを含む、関西圏の中の「大阪」として強みを発揮することが次のステップとして、今後の重要な視点であることを付記する。

①シビックプライドの醸成　～　一人ひとりが大阪に“愛着”と“誇り”を持って　～

平成 26 年度の第 4 回研究会では、「まち歩き」の活動紹介を通じて、大阪の市民一人ひとりが、いかに大阪への「愛着」と「誇り」を持って行動することが重要であるか、「自己肯定戦略」を持つことが重要であるかを再認識した。

そのためにも、まずは、大阪で日常あるものに着目し、文化や歴史の深さ、厚みに関心を持つことが第一歩となる。

また、大阪の文化を守り、伝えていくためには、市民自身が「知る」だけでなく、日常のイベントに「参加する」というライフスタイルのあり方についても見直す必要がある。

まずは、「シビックプライド」を醸成することから始めよう。

＜大阪での取り組み事例＞

「大阪あそ歩」の取り組み

2008 年 10 月、大阪コミュニティ・ツーリズム推進連絡協議会（大阪市、大阪商工会議所、大阪観光コンベンション協会（現・大阪観光局）等）の発足と同時に開始された。

大阪の魅力を「まち歩き」と「まち遊び」によって、市民の手で発信していくことを目的としている。それにより、『大阪のそれぞれの「まち」の歴史や風土を知り、そこに住む人々の生活の機微に触れ、それらこそが大阪の本来の魅力であることを再確認し、それらを楽しみ、そして発信する』こととしている。

基本 150 コースがあり、100～200 人のガイドが関わり、これまで約 2 万人の参加者を集めて、持続的に実施されている。

＜シビックプライドの事例＞
○『I LOVE NY』
"I Love New York"（アイ・ラブ・ニューヨーク）は、1970 年代から 1980 年代にかけてアメリカ合衆国のニューヨーク州が行った観光キャンペーン。ハートマークが Love を意味するロゴがプリントされたグッズは、ニューヨークみやげの定番となっている。

○『I amsterdum』.
2004 年から始まったアムステルダムの都市プロモーション・キャンペーンのキャッチ・コピー。
「アムステルダムの資産は人」という視点のもと、住んでいる人一人ひとりの「この街に住む誇り」をあげていくためのキャンペーンとされている。

②オリンピック・文化プログラムの推進

オリンピック憲章では「スポーツを文化と教育と融合させる」ことをオリンピズムの目指すものとしており、大会開催時には、スポーツ競技だけでなく、並行して「文化プログラム」を開催することが義務づけられている。

2020 年の東京オリンピック・パラリンピック開催に向けて、今後は、東京そして日本全国で文化プログラムが開催される予定であり、関西は「文化首都」として、その役割発揮が期待されるところである。

今回のオリンピック開催を好機と捉え、関西広域連合による取り組みも踏まえ、積極的に大阪から文化プログラムを提案し、市民一人ひとりが参加して、大阪の都市格向上につなげていくことが必要である。

（具体的取組イメージ）

・大阪でのオリンピック・文化プログラムの実施拡大
・大阪の企業・市民による提案型文化プログラムの支援（認定、広報、補助）

関西広域連合では、日本文化に重要な位置を占める関西の文化の取組を踏まえた文化プログラムの推進について、2014 年 11 月 12 日に次の３つを国（文部科学大臣）に要望した。

1　東京オリンピック・パラリンピック大会の文化プログラムについては、早急に専門委員会を設置し、多種多様な日本文化の蓄積を尊重した計画を策定するとともに、その中に「はなやか関西・文化戦略会議」で検討している関西の取組を十分盛り込むこと

2　文化プログラムの実践を通して、国と地方の協働関係が築いていけるよう、関西における文化の若い担い手育成や次世代への文化の継承の取組など地方の取組への所要の財政支援を行うこと

3　リオデジャネイロ大会を見据えた広報戦略を早期に立て、関西をはじめ全国の文化資源や文化創造の取組を世界に向けて大きく情報発信すること

2014.07.18
五輪文化プログラムの具体化検討　　東京都

東京都は、２０２０年東京五輪・パラリンピック大会に合わせて、全国で実施する文化プログラムの内容の検討を始めた。既に芸術や伝統芸能の第一人者らがメンバーの東京芸術文化評議会や、同評議会の文化プログラム検討部会で、文化、芸術の充実や発信力強化のための意見を聞いており、今後、具体化を図る。

また、東京の芸術文化力の強化のため、民間の芸術文化活動を支援する都の関連団体「アーツカウンシル東京」の機能向上にも取り組む。同団体は１４人体制で、年間事業費は６億円。今後、事業費増などで、文化、芸術団体への支援を拡大し、五輪の文化プログラムを下支えする。

文化プログラムは、五輪憲章で定められており、１６年夏のリオデジャネイロ五輪の終了後速やかに、日本の芸術や文化を体験できるプログラムが国内各地で開始される。

さらに、東京五輪とほぼ同時期に、海外から招聘（しょうへい）したクリエーターらも参加して、全国で「東京フェスティバル」（仮称）が開かれ、ピークを迎えることになる。

文化プログラムの検討や実施は、１５年中にも東京大会組織委員会に設置される担当部署に移管される予定。都はそれまでに実施可能なアイデアをまとめ、組織委にも積極的に提案していく方針だ。

１２年のロンドン五輪では、同時期に行われた「ロンドン２０１２フェスティバル」に、五輪参加国と同じ２０４の国と地域から、アーティスト２万５０００人が参加した。（了）

（２０１４年７月１８日／官庁速報）

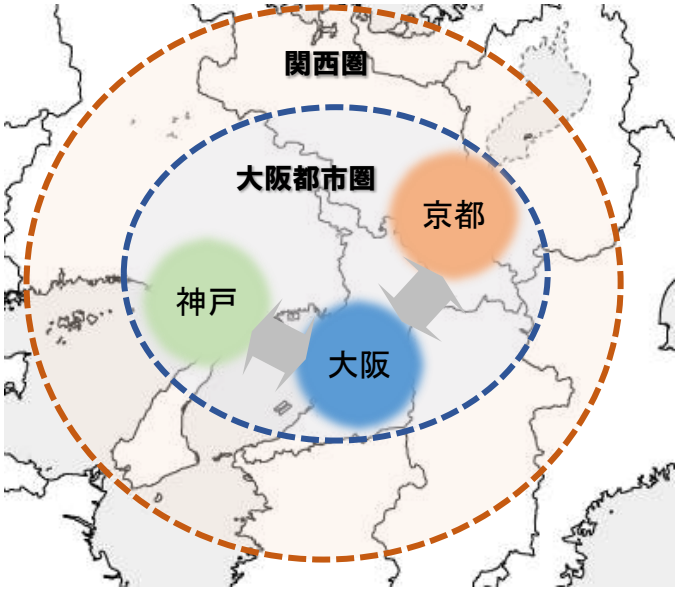
資料：東京都「TOKYO2020 立候補ファイル」

③関西圏の中の「大阪」としての強みの発揮

本研究会では『地理的近接性や鉄道・道路網の発達等から考えると、時間距離を見ても、「大阪」を大阪市という行政の狭い範囲でとらえるのではなく、京都や神戸も一体に含めた「大阪都市圏」として、その「都市総合力」をとらえることが重要である。また、さらに範囲を「関西圏」に広げて見てみると、周辺には多くの世界遺産や自然環境が整っていることも、大阪の魅力の一つである。』として、「大阪」のエリア概念を位置づけた。

そこで、大阪の都市格を向上するためには、すべてを狭義の「大阪市」の中で満たすのではなく、関西圏の都市の資源や機能を十分に活用することも合わせて提案する。

特に、かつてのように東京経由世界行きではなく、大阪からダイレクトに世界に打って出るためには、関西圏の広がりの中で「受容する都市・大阪」、「発想できる都市・大阪」、「伸ばす都市・大阪」をアピールしていくことが必要である。



「大阪」エリアの展開概念

＜研究会　構成メンバー＞

（平成２７年３月末日現在）

部会長　吉川　和広　　大阪都市再生部会（京都大学　名誉教授）

座　長　森澤　五郎　　大阪都市再生部会　大阪の都市格向上研究会
（株式会社竹中工務店）

研究会参加企業・団体（50 音順）

大阪ガス株式会社
株式会社大林組
川崎重工業株式会社
関西電力株式会社
新日鐵住金株式会社
株式会社竹中工務店
西日本電信電話株式会社
株式会社日建設計
株式会社日本政策投資銀行
日立造船株式会社
三菱重工業株式会社
三菱電機株式会社
一般財団法人大阪湾ベイエリア開発推進機構

事務局

一般財団法人大阪科学技術センター
株式会社地域計画建築研究所

平成２６年度大阪都市再生部会

大阪の都市格向上研究会 調査報告書

平成２７年３月発行

発　行／一般財団法人大阪科学技術センター　地域開発委員会
大阪の都市格向上研究会
事務局／〒**550-0004**　大阪市西区靭本町１丁目８番４号
ＴＥＬ：０６－６４４３－５３２２
ＦＡＸ：０６－６４４３－５３１９

禁無断転載